

二学期制になって子どもたちに起こる変化は、これまで夏休み前、冬休み前にもあった通知表を、10月にも行うようになることです。初めは慣れないかもしれませんが、子どもたちが困ったり、戸

惑ったりするようなことはありません。また、前期と後期の間に秋休みができません。長い休みではありませんが、ここで新しい学期への気持ちの切り替えを図ってほしいと思います。授業時数が増える分、補充や発展の学習内容が増えます。先生たちに少しゆとりができる分、授業の充実が図られ、子どもとかかわる時間も増えます。

A. 通知表を10月にも行うようになり、秋休みができません。

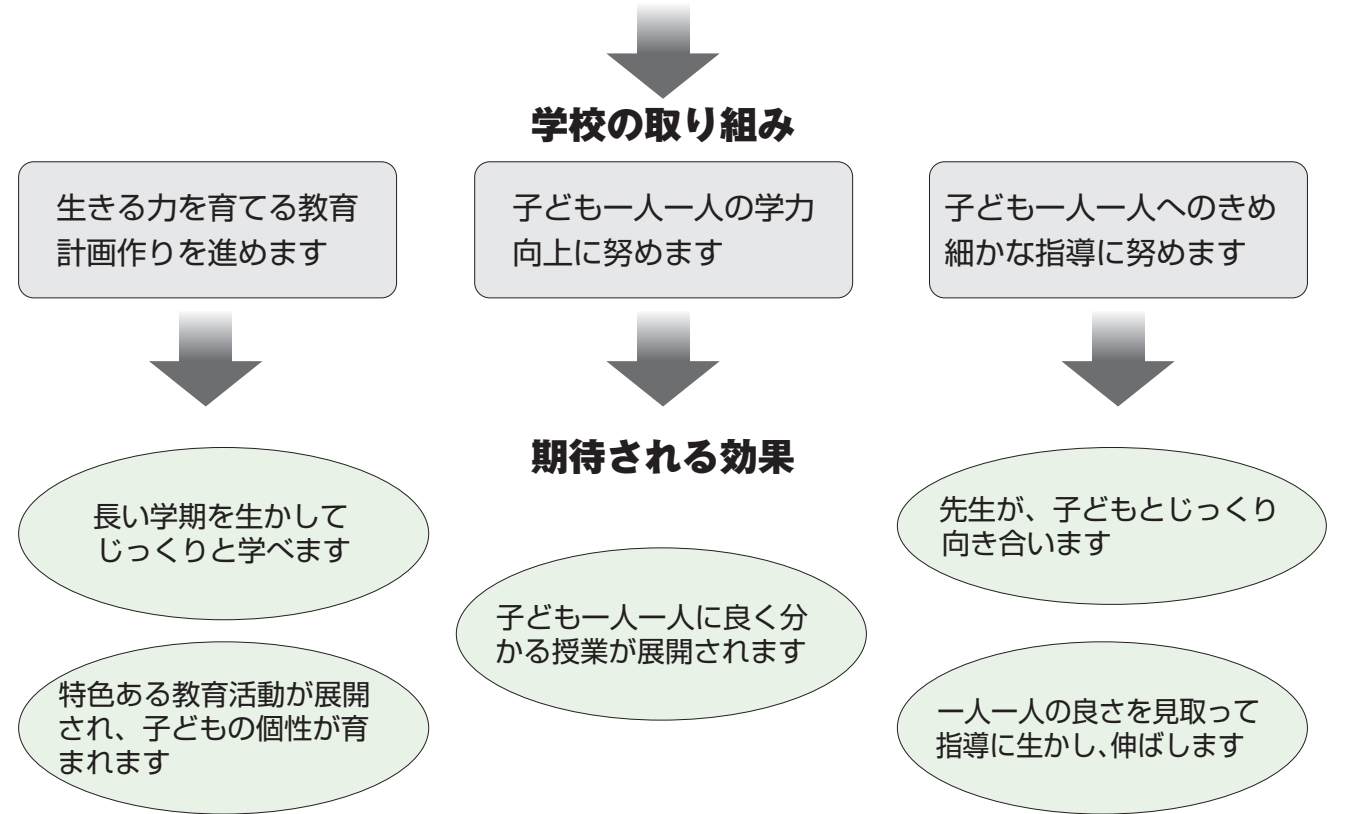
## Q. 子どもたちの学校生活で主にどんなところが変わりますか？

# 二学期制Q&A



これまで行われてきた三学期制が二学期制に変わるといことで、多くの皆さんに不安や戸惑いがあるでしょう。また、初めて二学期制を聞く人にとっては、何か大きな変化が起こるのではという思いがあるかもしれません。しかし、二学期制が始まるといっても、それほど大きな変化が起こるわけではないのです。ここからは皆さんの不安や疑問を解消するために、Q&A方式で二学期制を詳しく説明していきます。

## 年間授業日数は変えず、授業時間が増やせる二学期制の導入



## 二学期制にデメリットはないのか

先行実施している地域や学校の情報では、二学期制導入に対して不安や戸惑いの一部、見られるようです。しかし、子どもの学力保障や授業の遅れ、授業時数の減少、教師と子どものかかりなど、子どもの側に立った教育という観点からは、デメリットはほとんどありません。強いて挙げるとすれば、子どもたちの学習や生活の様子を知らせる通知表の回数が、3回から2回に減るということでもあります。新学習指導要領では、絶対評価(※)を行うことになりましたが、この評価は、長期間にわたる細かな観察と指導の記録が必要です。



二学期制での通知表では前期と後期それぞれ約6カ月という長期間で、子どもたちの学習面と生活面での向上や変容を評価し、家庭へ連絡します。つまり二学期制の方が絶対評価は行いやすいのです。家庭に連絡する情報が量的に減ることは、家庭訪問や個人面談、各種通信を工夫し、これまで以上に充実させることで補うことができます。詳しくは6ページのQ&Aをご覧ください。

※絶対評価とは、子ども同士を比べて一定の比率で評定を出すのではなく、学習の目標に到達しているかどうかで評定する方法です。



## Q. 学期の途中で長期の休みがあると学習意欲が低下しませんか？

A. 計画的に学習に取り組むことで学習意欲の向上や学習習慣の育成に効果があります。

学期の折り返し点でもある秋休みはこれまでの学習を振り返り、学習の成果や目標を再点検し、後期への励みとする時期です。長期休業日(夏休み・冬休み)

に個人面談などで子ども一人一人の課題の把握や学習目標の修正、再設定ができます。また、総合的な学習の時間の延長として体験活動を行ったり、体力向上のために運動をしたりして、課題解決に向けて自主的・発展的学習に取り組むこともできます。

## Q. 中体連などの行事への影響はありますか？

A. ゆとりある計画の下、行事にも部活動にもより力を入れられます。

二学期制では学期の期間が長くなるので、行事日程の設定の幅が広がり、ゆとりある計画を立てることができ、運動会や修学旅行などは開催時期を変更しやすくなります。

中体連は部活動をする子どもたちにとって最大の関心事でしょう。例年7月1日前後に宇城地区大会、7月20日過ぎに熊本県大会、8月8日前後に九州大会、

8月23日前後に全国大会が行われます。

三学期制では7月になると先生たちは学期末の成績評価や通知表作成に多く時間を取られ、放課後の部活動の指導にあたるのが厳しい状況でした。二学期制になると先生たちに時間的なゆとりができ、部活動の大切な総仕上げの時期である7月にじっくりと腰をすえて指導することができます。なお夏休み期間中の部活指導は、これまでと変わりません。